

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年7月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1570600369		
法人名	社会福祉法人 いじみの福祉会		
事業所名	グループホーム 陽だまり苑		
所在地	新潟県新潟市岡田1746番地の1 (電話) 0254 - 20 - 3800		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	21年	3月26日

【情報提供票より】(21 年 2 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤10人、非常勤2人、常勤換算10人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階	建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(120,000 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり		1,200 円

(4) 利用者の概要 (21 年 2 月現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2		8 名	
要介護3	1 名	要介護4		5 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中医院、県立新発田病院、北越病院、村山歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、新発田市郊外の自然豊かな場所に位置している。建物は木造平屋造りで、共有空間や居室など利用者の生活スペースは広く、ゆったりとしている。同一敷地内には、本体施設である特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターが併設されており、法人が一体となって実施されている各種委員会活動や職員研修、緊急時を含む医療面での協力・連携など、バックアップ体制も確立されている。地域交流にも積極的に取り組み、広報誌の発行や季節に合わせた行事参加、認知症に対する啓発活動等を行い、利用者が住み慣れた地域での生活を継続できるよう、地域の理解が得られるよう努めている。運営推進会議でも活発な意見交換が行われており、地域からも信頼を得ていることが伺える。利用者の生活については、本人の意向を大切に、家族と協力しながら、利用者一人ひとりの生活歴を活かし、持っている力を最大限発揮して生活できるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の自己評価結果および外部評価結果を踏まえ、重点項目を設定して改善に向けて取り組んだ。「事業所の力を活かした地域貢献」では、回覧板で、職員が研修等で得た情報、新型インフルエンザ等の情報を地域に発信するなどしており、今後も継続したいと考えている。また、今後は地域の清掃活動への参加にも取り組む意向である。「同業者との交流を通じた向上」では、同業者とのネットワーク作りなどの具体的な実現はできなかったが、研修会の開催など交流のきっかけ作りを市の担当者へ働きかけている。「鍵のかけないケアの実践」では、日中鍵をけない時間を設けるとともに、帰宅希望の強い利用者に対しては、家族の協力のもと、外出の機会づくりなど本人の気持ちに沿った支援に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員ともサービス評価の意義を理解したうえでホーム全体で自己評価内容を検討し、日常の支援内容を見直し、改善に向けて取り組む機会として活用している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催するには至っていないが、ホームの活動状況や取り組みについて活発な意見交換が行われている。また、日常のホームの状況を知ってもらえるよう、会議参加者には利用者と一緒に昼食を食べてもらっている。家族、地域の代表、民生委員、地域包括支援センター職員が参加しているが、利用者本人の参加は実現されていない。今後は、本人にも参加してもらう方向で前向きに検討中である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>法人として、家族からの苦情対応マニュアル、苦情受付用紙は整備されているものの、ホーム独自のものは用意されていない。家族には毎月ホーム便りを送ったり、行事案内を行い、ホームに関心を持ってもらうよう働きかけている。また、日頃から、ホームの運営方法等について家族とのコミュニケーション機会を多く設け意見交換を行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>祭りや文化交流イベントなど、地域行事への参加を通じて交流を図っている。法人全体で行う夏祭りも地域住民との交流の機会としている。運営推進会議では、地域の中で災害時での食料確保への支援、協力体制の確立に向け取り組みを検討しているところである。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が持っている能力を最大限生かしながら、住み慣れた地域の中でご当たり前の生活を営めるよう支援する旨の運営理念を掲げ、管理者を中心に職員が共有しながら支援に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や食堂など目に留まりやすい場所に掲示するとともに、各ユニット毎で、朝礼時にホームの理念を復唱し、職員が意識できるよう取り組んでいる。理念に基づき、日常の中で利用者の持っている能力をどう引き出すかを考えながらケアを提供している。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族へは、日々の支援内容やホームの取り組みを伝えるを通じ、ホームの理念や考え方を家族へ伝えている。また、地域に対しては、運営推進会議で日々の様子や活動を伝えたり、広報誌に理念を掲載するなどして理解浸透を図っている。		地域と共に支えあうという地域密着型サービスとしての理念、役割について、さらに地域の理解を深め、協力を得られる体制を構築するため、運営推進会議のほかに、自治会や町内会などの地域の社会資源への積極的な働きかけを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域柄、農業に従事する地域住民が多く、農閑期など限られた時期にしか交流機会を設けることが難しい状況ではある。その中で、文化交流展に作品を出品するなど地域行事へ参加したり、法人で行う夏祭り等を通じて、地域住民と交流を持てるよう取り組んでいる。		今後、地域の老人会、お茶の間などの社会資源を活用するなど、地域の中の一員として暮らしていけるためのより積極的な取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、各ユニットごとに話し合い、実施している。その中で新たな気づきを発見する機会となり、評価を通して得た気づきを日々の支援に反映している。また、前回の外部評価結果についてもホーム全体で共有し、前向きに改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の参加メンバーは家族、地域住民代表、民生委員、地域包括支援センター職員となっている。会議では、日常の様子や運営状況報告を受けて参加者から意見が出されており、ホームでのサービスに活用している。		今後、サービスを受ける当事者である利用者自身からも参加をしてもらえるよう取り組みを期待したい。また、開催回数について、現在は2ヶ月に1回定期的に開催するには至っていないので、今後は概ね2ヶ月に1回の開催を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人として市との連絡担当者を決め、一元的に市の担当者との連絡を行っており、ホームとして市との連携を図る機会は少ない。地域包括支援センター職員からは運営推進会議に参加してもらい、意見をj得ている。		今後、ホームとしても市担当者と連絡・相談できる体制をつくり、日常的な疑問や悩みを相談したり、ホームの状況を知ってもらうことを通じて、ともにサービスの質の向上に取り組んでいく関係の構築に期待したい。
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や研修会を通じて、利用者の権利擁護の重要性を理解・認識している。また、日々の利用者への言葉がけや態度について、管理者から職員へ、職員会議を通じて、また、個別に話をする機会等を設け、注意喚起している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの担当職員から、面会時や電話等にて家族に様子を報告している。面会は、家族の都合に合わせて出来るだけ来てもらえるようお願いしている。金銭管理については、金銭出納帳を作成し、年に2回程度家族から確認してもらっている。また、ホーム全体の様子を伝えるホーム便り「陽だまりの詩」を毎月発行している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族とのコミュニケーション機会を多く持ち、意見等を言いやすい雰囲気づくりをしている。重要事項説明書等に苦情受付窓口や対応責任者を明記し、対応する体制を整備している。本体施設である特別養護老人ホームには苦情等を受け付ける用紙が設置されている。		利用者、家族が意見等をより挙げやすくなるよう、本体施設だけでなくホームにも意見を記入できる用紙や、気軽に入れられる意見箱を設置するなど、小さな意見や要望も吸い上げ、ホームのサービスに反映していくさらなる工夫を期待したい。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回程度、勤務者以外の全員が参加する職員会議を行い、運営について職員が意見を出し合っている。職員会議は、外部研修に参加した際の研修報告機会としても活用している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複数の事業所を持つ法人であり、必要に応じて異動が行われている。職員の異動の場合は、可能な限り早めに決定して職員に伝えるようにして利用者との関係づくりや引き継ぎが徐々にスムーズに行われるようにし、また、利用者、家族にも早めに伝えてダメージを軽減するよう努めている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人共通のマニュアルがあり、それを基にホーム独自のマニュアルが作成し、ユニットごとに配布している。職員会議等で内容の読み合わせをするなどして、職員への周知を図っている。マニュアルの見直しについては、法人内での委員会を通じて検討されている。		マニュアルの見直しはなされているが、段階的にどのような見直しがされてきたのかは記録されていなかった。マニュアルを見直した経緯等を示すことにより、変更内容に対する職員の理解を深め、さらなる周知・活用につなげていくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームとして職員が外部研修に参加する機会を確保しているほか、職員自身が希望に応じて自らの時間を使って参加した研修についても、内容をホーム全体で共有している。また、法人内でも外部講師を招くなどして内部研修を実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが他事業所と交流し、情報交換を行うなどしている。市内にあるグループホーム間でのネットワーク作りを行う試みはなされているが、具体的な活動へと発展できていないのが現状である。		市の担当者や地域包括支援センターとの連携を深め、協力を得ながら、他のグループホーム間とのネットワーク作りを進めていくことを期待したい。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員会議等で職員の意見を聞いており、互いに意見を言いやすい関係づくりがされている。また、親睦会も開催して、コミュニケーション促進やストレス軽減を図る機会としており、職員も日頃思っていることを話せる場としている。		日常の休憩時間は、職員は利用者とホームで過ごすことが多く、職員は特に違和感を持ってはいない。しかし、職員がゆっくりと心身を休めるために、現場から離れて休息を取れるような環境整備についても検討を期待したい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者や家族には、ホームを見学してもらったり、ホームでの生活内容を説明するなどして、事前に雰囲気を知ってもらえるようにしている。また、入居後は、家族から出来る限り面会に来てもらうよう働きかけるなど、利用者本人の不安を軽減できるよう、家族の協力も得ながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員一人ひとりが利用者を尊重し、常に利用者の言葉に耳を傾けることを強く意識しながら支援している。また、日々の生活の主役は利用者であることを踏まえ、料理や掃除等は利用者主に主体的に行ってもらい、職員は側面的な支援を行うよう努めている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からは可能な限りホームへ訪れてもらい、コミュニケーションを多く持って情報を共有するとともに、利用者の生活歴等を教えてもらうなどして情報収集している。ホームの行事にも参加してもらえるよう積極的に働きかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションをとる中で利用者本人の希望や意向等を把握し、支援に反映している。また、入居前に関係機関から収集した情報や、入居後の面会時等に家族から得た情報等をもとに、本人本位の生活が送れるよう支援している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、本人や家族、担当介護支援専門員等から情報収集をしている。また、入居後も、センター方式のアセスメント様式を活用して、さらなる把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット毎にカンファレンスを開催したうえで、担当職員が中心となり計画作成担当者と共に介護計画を作成している。カンファレンスには、利用者本人、家族にも参加してもらい、それぞれが意見を出し合い、話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、要介護認定の更新時期や状態変化時などに応じて適宜行われている。カンファレンスには利用者本人、家族にも極力参加してもらい、意見や要望を介護計画に反映できるよう取り組んでいる。また、カンファレンス以外でも日常的に家族とのコミュニケーションを図り、見直し時に活かせるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの美容院への外出や、緊急時の通院付添など、本人や家族の希望、状況に応じて支援している。また、併設の特別養護老人ホームやデイサービスと連携し、希望に応じて行事に参加し、利用者同士の交流機会としている。デイサービス利用者でホームへの入居を希望している方には、デイサービス利用時に見学してもらおうなど行き来できる機会をつくっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続して受診を希望する場合は、その希望に応じるようにしている。通院支援は原則は家族が行うこととしているが、緊急時などはホーム側でも対応している。ホームの協力医療機関とも日常的に相談や連携が可能な体制である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望、状況に応じて終末期まで支援することとし、重度化した場合や終末期の対応について、早期に意向を確認している。また、実際に終末期を迎えた場合は、主治医や、併設施設の看護師、家族の協力を得ながら支援している。本人、家族が併設施設への住み替えを希望する場合には、併設施設と連携をとりながら、可能な限り希望に添えるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類等は事務所で保管されており、記録等を作成する際にも利用者の目に留まることがないように注意しながら行っている。日常の利用者への言葉かけや関わりは、個々の誇りやプライバシーに配慮しながら、ゆっくりと丁寧に行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや希望に合わせて一日を過ごせるよう支援している。行きつけの美容院へ行きたいとの要望などにも、可能な限り対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けを利用者と職員が一緒に行っている。食事メニューも利用者の希望を踏まえ考え、ホーム内で収穫された食材も利用し、食事を楽しめる工夫と雰囲気づくりをしている。		車椅子を使用している利用者については、日常使用している車椅子に座ったまま食事が行われている。個々の身体機能により状況は異なると考えられるが、可能な限り食卓の椅子等に腰かけ、より安全・安楽な姿勢で食事ができるよう支援することを期待したい。
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿・便意が不確かな利用者には適宜さりげなく排泄誘導を行っている。また、紙パンツ等、個々の利用者に合わせて排泄用品を使用し、可能な限り自立した排泄に向けた支援をしている。排泄チェック表では排便の状態、頻度等も観察し、健康管理に活かしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中の時間帯で、本人の希望により入浴を支援している。マンツーマンでの支援を行い、ゆっくりと入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、食事の支度、洗濯物たたみなど、利用者の生活歴や能力を踏まえて、日々の役割を持てるよう支援している。やもすると利用者同士で競争意識が働いてしまうこともあるので、人間関係に考慮しながら対応・支援している。		本人の役割として職員と一緒に他の利用者の居室掃除をされている方がおられるが、居室の持ち主に断わらないまま入室している状況があった。日々の役割に対する支援を行う際、他の利用者のプライバシーにも考慮して実施することを、今後より一層期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内に観音像があり、天候や利用者の体調を見ながら掃除に出ている。買い物も利用者職員と一緒に出かけるなど、出来る限り外へ出かける機会を多く持ち、楽しめるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会により、身体拘束に関するマニュアルの検討、見直しが行われ、職員に周知されている。また、管理者が職員会議を通じて身体拘束に関する捉え方、考え方を職員に周知し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	これまで安全確保のため日中も玄関を施錠している状況があったが、ホームとして検討し、現在、10:00～14:00まで鍵を掛けずに対応している。利用者の状態観察、見守りを行って安全確保に努めており、家族へも説明して理解を得ている。今後も出来る限り鍵をかけない時間を多くするよう、検討しているところである。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故、ヒヤリハット発生時の記録が整備されており、対応策を検討して職員間で周知している。		事故、ヒヤリハット記録は整備され、対応策の検討・実施はされているが、その後の評価までは行われていない。対応策の有効性や再検討の必要性などの検証を行うことで、さらなる再発防止に繋がると考えられるので、今後の取り組みに期待したい。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	法人の事故防止委員会により事故発生時の行動マニュアルを作成、職員全員に周知して、事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練も定期的に行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年に2～3回程度、併設の特別養護老人ホームと連携して消防・避難訓練を行っている。機械の操作訓練や夜間想定訓練も行い、適宜消防団からの指導も受けている。運営推進会議では、非常時の地域住民との協力体制づくりを検討している。		現在、運営推進会議で地域住民との協力体制づくりを検討しているところであり、今後、さらに発展していくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士にも確認してもらいながら、1週間ごとに献立を作成している。献立には利用者の意見も反映するようにしている。食事摂取量、水分摂取量のチェック表を活用し、また、月1回の体重測定も行って、健康管理に活用している。利用者の状態により食事形態にも工夫しており、刻み食等の提供がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースは十分な広さがあるゆったりとした空間であり、利用者と職員と一緒に楽しみながら季節ごとの飾り付けを行っている。生活の中心になっているダイニングは日当たりもよく、明るく開放的な造りである。ダイニングのほか、中庭に面したダイルームもあり、利用者が思い思いの場所で過ごすことができる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に使用していた家具や衣類など馴染みのものを持ち込んで使用してもらい、落ち着いて過ごせる居室環境づくりをしている。写真やタンスなどが置かれ、利用者の好みや個性が伝わってくる居室となっている。</p>		